

景況実感調査(2016年10月)特記事項

毎月、景況実感調査にご協力頂きましてありがとうございます。集計結果は別紙にてお送りしましたが、今月もたくさんのコメントを頂きましたのでお送りします。ご査収下さい。

[お断り]毎月のコメントはあくまで個々の“生の声”です。業界全体の標準的見解とは、若干異なる場合もあります。また、不適當な表現やわかりにくい表現については書き直しております。信用問題にかかわるものも原則として掲載しておりません。

薄板・表面処理鋼板

- ① 前月と同様に稼働日が20日間となったが売上、数量共に5%の増となり、ようやく動意の胎動を感じた。11月も引き続き見積り、問い合わせ状況等々、メーカーの値上げ姿勢を受けてか、実需の出現と売り手側のスタンスも引き締まり、10月の流れが徐々に強まっていくと思われる。ようやく薄板在庫も400トンを割り込んできたので、丁寧な商売を心掛けて商機を逃さず、下期は頑張っていきたい。
- ② 高炉メーカーからの入荷が遅れてきて、在庫がタイトになってきた。仕入れ値は上昇、在庫はタイトで、値上げをしないとどうにもならない状態になってしまった。(安値の先には販売できなくなった)
- ③ 薄板三品在庫は適正水準に近づいてはいるが、まだ需要は低調だ。しかしながら、先安観が払拭され、市況の底打ちが確認できたので、メーカー先行だったコスト上昇分の価格転嫁の動きがいよいよ流通間にも広がり、じり安基調で推移した市況も基調転換を迎えそうだ。
- ④ 依然として、需要の掛け声だけで実需に手応えは感じられないものの、高炉メーカーの大幅値上げ要請から、一部特約店筋より思惑買いの引合いが出始めてきており、市況の上昇期待あり。
- ⑤ 若干の値上がり感が出てきている状況。

中板

- ① 浦安鉄鋼団地に何かいつもの活気がない。廃業など暗い話ばかり聞こえる。今後、仕事は選んでいられないので、無理をしても取りにいく努力をしていくしかないのが現状。

厚板

- ① 最悪期は脱したと実感している。メーカー値上げを転嫁できず苦勞している。

— 舟安开形鋼

- ① 9月比10月は営業日数が3日多いにもかかわらず、各指標は前月比減となった。トレンドからは10月20日以降の荷動きが停滞悪化したのだが、奇しくもメーカーの石炭由来の値上げアナウンスが新聞紙面を賑わした時期と重なる。H形鋼、形鋼に長さの歯抜けが散見される現在、例年ハイレベルな需要期である来月11月を迎えるにあたり、その推移と結果は半年先の景況を占う大事な月となろう。
- ② 9月比10月は日当たりで若干増えた。土木向け中心で動意があったと思われる。ただし、市況は上伸力を欠き、一部突っ込んでいた安値が切り上がった程度で上値は変わらず推移した。例年需要が出てくる11月に期待したい。

工工形鋼

- ① 10月の倉出しはプラスとなったが、日当たりは横這い。変化はあまりないが、高炉メーカーの値上げの発表もあり、雰囲気は変わり市況回復の兆しがあり、価格転嫁していく。
- ② 市況は下げ止まったと思われる。流通サイドからも市況上げの声が上がっている。メーカーのぶれない対応が後押しになる。

異形棒鋼

- ① 浦安の店売りは低調であるが、加工品まで含めると今年の平均的なところだ。横這いとしている。競争してもパイが減少している中で意味がない。売りは価格を大事にしていきたい。
- ② 鋼板、形鋼市況が上昇含みであるが、棒鋼市況のみ弱含み。五輪特需を前に需要不振が原因。製販とも苦しい環境である。

平鋼

- ① 荷動きは横這い。小口当用買いのみで在庫用の引合いはない。メーカーが値上げを行う可能性が高い状況でありながら市中の反応は鈍い。やはり足下の需要がなく、どこも様子見であるため、かえって市中は静かな状況。

車量開形鋼

- ① メーカーの値上げが実行され、物件が出て来ると期待しているのだが、今のところ大きな変化は見受けられない状況だ。ただ、今後に対する期待は大きい。
- ② 繁忙期を冬場に見据えて活動してきたが、11月になっても良い兆候は実感できない。豊洲市場やアリーナ建設問題が片付かないと前に向かって進んで行かない雰囲気だ。
- ③ 生産、出荷とも10月は見込みより数値が悪かった。11月も現在まで状況は良くない。来年度まで好機は見込めないか。

鋼管

- ① 9月以降、需要は回復基調であるが、力強さはない。

構造用鋼

- ① 需要動向に大きな変化はなく、自動車関連部品は堅調な動きが続いている。建設機械関連は大型機種は低迷が続いている。小型機種は輸出を含め先々増産の計画となっているが、大きな期待はできない。店売りの荷動きは変化なく、横這いが続いている。高炉メーカーが原料高により値上げに動き出しているが、紐付き価格が上がらない中、また店売りの動きが振るわない状況であり、店売りの値上げは難しい。
- ② 低調な動きは変わらず、状況は厳しい。高炉メーカーから値上げアナウンスもあり、各社の動向を注視していく。

鋼材全般

- ① 9月の荷動きが良かった分、10月に入り急激に低下。先月は値上げのタイミングもあり、三次店の在庫意欲の影響もあったが、10月はその反動もあり様子見の状況。

その他

<スクラップ>

- ① 減産予定の国内メーカーも多く不安要因もあるが、現状は強含み。

<金属表面処理加工>

- ① 10月は物件物、紐付きとも計画通り。前月に続き高付加価値の加工が多く高操業となる。スポットも高位安定。年明け納期ではあるが、まとまった物量の引合いも活発。引き続き期待したい。11月も造船、プラント向けを中心に高操業を維持できそうである。